

【7-8】

地域と学生の協働企画による歴史まちあるきツアー —ミラレ金屋町における取り組みを事例として—

準会員 ○ 伊藤 野々香*
正会員 藪谷 祐介**
会員外 荒井 敢太*
会員外 北野 まつ葉*
会員外 恵良 杏樹*

ガイドツアー クイズラリー 歴史
まちづくり 金屋町 学生

1 研究の背景と目的

富山県の西部に位置する高岡市金屋町は 400 年以上の歴史を誇る町並みを持つ地域である。2012 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。千本格子の家並みは大切に保存されており、美しい佇まいを持つまちである。ミラレ金屋町は、金屋町の地元住民と富山大学芸術文化学部と高岡市が協働したイベントである。江戸時代の趣を残す伝統的な金屋町の建物を「観る」だけでなく、実際に金屋町の通りや町屋を巡り、住民や職人、作家との交流を通してその文化に触れあうことで、町屋に暮らす人々の生活を体験できるものである¹⁾。クラフト作品の展示やワークショップ、着物のファッションショー等の様々な企画が行われており、筆者らは「知ってミラレ 金屋町ガイドツアー（以下、ガイドツアー）」と「探してミラレ 金屋町クイズラリー（以下、クイズラリー）」の企画運営を担当した。この企画は、歴史を知ってもらうことで金屋町の理解と興味を深め、観光だけでなく普段の日常にも気軽に来ってもらうことを目的とした。本稿ではこれらの具体的な企画の内容について報告し、その効果について考察する。

2 研究方法

2-1 調査方法

ガイドツアーとクイズラリーを企画・運営し、終了後にガイドツアーは参加者全員、クイズラリーはゴールした人に対してアンケート調査（匿名式）を行った。調査項目は表 1 に示す。

表 1 アンケート調査項目

アンケート項目	
属性	性別、年齢、居住地域、金屋町への来訪回数、金屋町への来訪頻度、金屋町への来訪理由
企画参加	満足度、難易度、また金屋町に訪れたいか、金屋町の歴史を感じることができたか、参加理由
自由回答	(記述式)

2-2 「知ってミラレ 金屋町ガイドツアー」

オリジナル探索キット（古地図サコッシュ、クイズ用紙、えんぴつ、学生が主催するお茶席のお茶券）を持って、「町なみを考える藤グループ」（金屋町で活動する任意団体：以下、「藤グループ」）と学生の案内によってま

ちを巡るツアーである（写真 1）。概要は表 2 に示す。

2-3 「探してミラレ 金屋町クイズラリー」

金屋町の古地図を基に学生がデザインしたオリジナルサコッシュを提げて金屋町を探索する。探索時間は参加者の自由で、作成した金屋町にまつわるクイズを歩き歩いてもらい、キーワードを集めてゴールすることで、学生による茶会「あおぞら席」でのお茶とお菓子を楽しめる内容となっている（写真 2）。概要は表 2 に示す。

表 2 企画概要

	知ってミラレ 金屋町ガイドツアー	探してミラレ 金屋町クイズラリー
開催日	2019年9月21日(土)、22日(日)	
時間	14時から1時間程度	10時から14時まで随時受付
定員	各日10名	各日15名
参加費	1,000円	
参加特典	オリジナル古地図サコッシュ、学生の茶道部による茶会「あおぞら席」招待券	



写真 1 ガイドツアー



写真 2 クイズラリー

2-4 制作物

古地図サコッシュ（写真 3）、クイズ用紙（出題内容は表 3）、解説用紙、手持ち看板、ツアー用旗、パネル。



写真3 制作したオリジナル古地図サコッシュ

表3 出題内容

	出題内容	選択肢	解答
(1)	“高岡”という地名は「詩経」という中国最古の詩篇が由来となっています。その漢詩とは次のうちどれ	我登山高焉成岡哉、 鳳凰鳴矣于彼高岡、 慶知故高岡事及雨	鳳凰鳴矣于彼高岡
(2)	金屋町に建つほとんどの家は瓦の屋根ですが、立川家の屋根には瓦ではないあるものが使われています。それはなに	石、 茅、 竹	石
(3)	旧南部鑄造所のキュボラと煙突は明治十三年、鑄物の材料となる地金を溶かすための溶炉として建設され、いつまで稼働していたでしょうか	昭和四五年、 昭和二八年、 平成十二年	平成十二年
(4)	金屋町は元々帯状の町でした。しかし近代化の整備の際、大きな道路により二つに分かれてしまいました。その道路の別名は次のうちどれ	大正通り、 昭和通り、 平成通り	昭和通り
(5)	高岡市鑄物資料館の第二展示室には、昔鑄物製造の工程の中で使われた“たたら”という道具があります。これは何をするために使うものか	風を送る、 鑄物を冷やす、 純粋な銅を作る	風を送る
(6)	高岡城から見て千保川の対岸に金屋町がある理由はなぜ	鑄物の匂い、 防火のため、 利長が金属アレルギーだった	防火のため
(7)	石畳通りにはところどころに銅板が埋め込まれています。星形の銅板の形は次のうちどれ	北斗七星、 オリオン座、 カシオペア座	北斗七星
(8)	現在公園になっているポケットパークですが、元々は町屋でした。その地下には木造家屋が建ち並び金屋町に必要なものは何	家を直すための木材、 瓦の窯、 防火水槽	防火水槽
(9)	鑄物工房利三郎は初代が双型鑄物を始めた老舗です。この利三郎の創業年はいつ	昭和元年、 明治元年、 平成元年	明治元年
(10)	金屋緑地公園には落下型の噴水があります。金屋町に関するあるものがモチーフとなっているのですが、それは次のうちどれ	千本格子、 金属を流し込む様子、 千保川の流れ	千本格子

3 アンケート結果

アンケートはガイドツアー14名（回収率100%）、クイズラリー16名（回収率51%）から回答を得た。クイズラリーの回答率が低いのは、ゴールをした人のみの回収となっているためである。以下にその結果を示す。

3-1 属性

性別については、ガイドツアーは男女ともに5割ずつ、クイズラリーは「女性」が約9割を占めている（図1,2）。年齢については、両方とも30代の参加者はいないが、他の年齢層はだいたい同じである（図3,4）。居住地域については、ガイドツアーは「高岡市内」が約4割を占め、「北陸」、「金屋町」、「富山県内」、「その他」と続き幅広く参加しているが、クイズラリーは「高岡市内」が半数、「富山県内」が約4割を占めている（図5,6）。

金屋町への来訪回数については、ガイドツアーは「4回以上」が半数を占め、次に「1回目」が多く、クイズ

ラリーは「4回以上」が約6割を占め、次に「2回目」が多くなっている（図7,8）。来訪頻度については、ガイドツアーは「年1回」と「年1回未満」が両方4割ずつを占めているが、クイズラリーは「年1回」が約7割を占めている（図9,10）。来訪理由については、両方とも観光が多い（図11,12）。

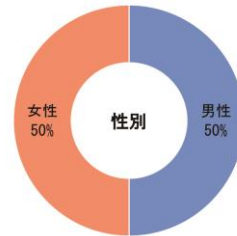


図1 性別（ガイドツアー）

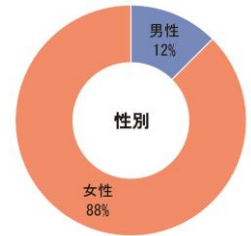


図2 性別（クイズラリー）

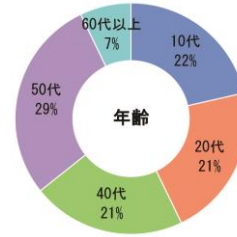


図3 年齢（ガイドツアー）

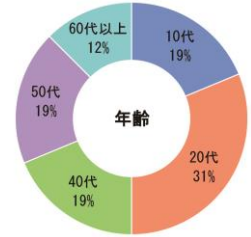


図4 年齢（クイズラリー）

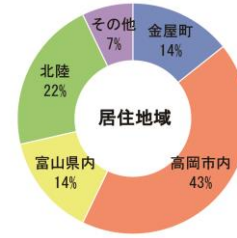


図5 居住地域（ガイドツアー）

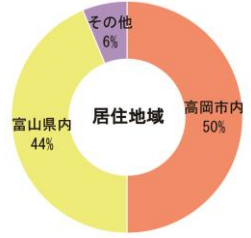


図6 居住地域（クイズラリー）

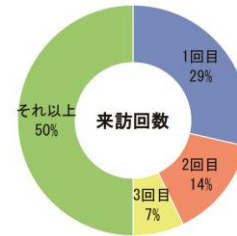


図7 来訪回数（ガイドツアー）

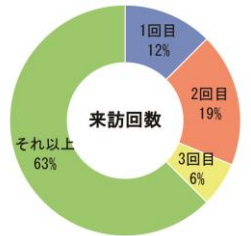


図8 来訪回数（クイズラリー）

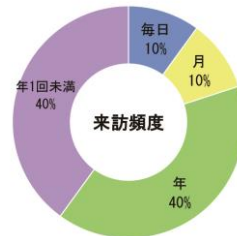


図9 来訪頻度（ガイドツアー）

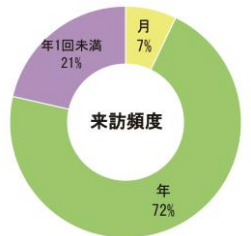


図10 来訪頻度（クイズラリー）

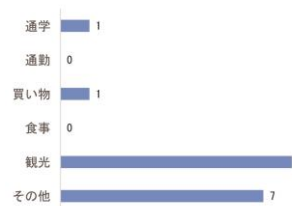


図11 来訪理由（ガイドツアー）

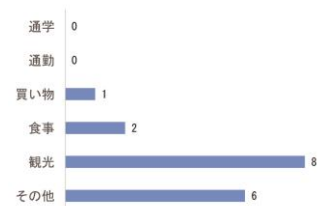


図12 来訪理由（クイズラリー）

3-2 企画参加

企画の満足度については、ガイドツアーは「とても良かった」と「良かった」が約 9 割を占め、「普通」が約 1 割であるが、クイズラリーは「とても良かった」と「良かった」で占めている（図 13, 14）。企画の難易度については、ガイドツアーは「やや難しい」と「普通」が半数ずつ占め、クイズラリーは「やや難しい」が半数を占め、次に「難しい」が 25% 占めている（図 15, 16）。また金屋町に訪れたいかについては、ガイドツアーは「どちらともいえない」が 15%、「訪れたい」が残りを占めるが、クイズラリーは「訪れたい」が 100% 占めている（図 17, 18）。金屋町の歴史を感じたかについては、両方とも「歴史を感じた」が 100% を占めている（図 19, 20）。参加理由（複数回答可）については、ガイドツアーは「サコッシュのデザインが良かったから」7 名（26%）、「金屋町について深く知れると思ったから」5 名（18%）が上位を占め、クイズラリーは「サコッシュのデザインが良かったから」10 名（35%）、「学生が企画しているから」6 名（21%）、「クイズラリーに興味があったから」5 名（17%）が上位を占めている（図 21, 22）。

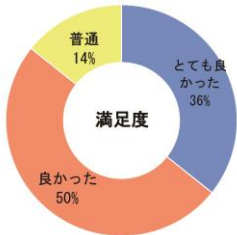


図 13 満足度 (ガイドツアー)

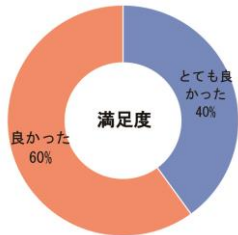


図 14 満足度 (クイズラリー)

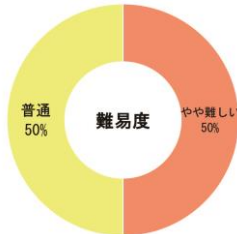


図 15 難易度 (ガイドツアー)

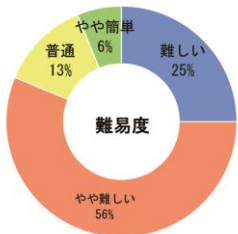


図 16 難易度 (クイズラリー)

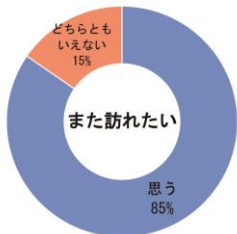


図 17 また訪れたい (ガイドツアー)



図 18 また訪れたい (クイズラリー)



図 19 歴史を感じた (ガイドツアー)

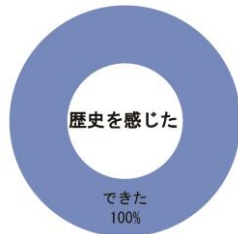


図 20 歴史を感じた (クイズラリー)

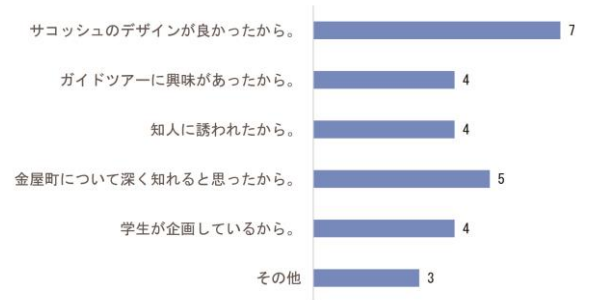


図 21 参加理由 (ガイドツアー)

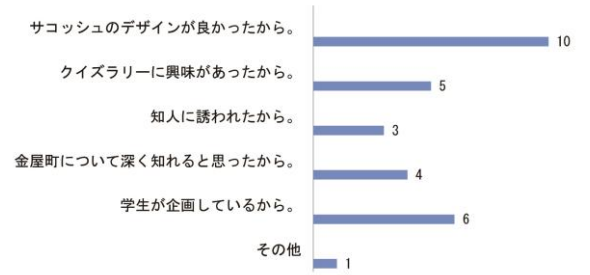


図 22 参加理由 (クイズラリー)

3-3 自由回答

自由回答については、ガイドツアーは「説明が面白かった」、「住人の地域への愛着を感じた」、「学生が一生懸命で良い」、「お茶・お菓子が美味しかった」等が挙げられ、クイズラリーは「サコッシュがかわいい」、「企画を通して、地域の人や学生とコミュニケーションが取れて良かった」、「学生が頑張っていて良かった」、「地図が分かりづらかったので、新旧の地図を合わせて表示されていると良いと感じた」等が挙げられた（表 4）。

表 4 自由回答

自由回答	
ガイドツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・年配の方の説明がわかりやすかった ・お茶お菓子美味しかった(2) ・街並みが綺麗だった ・説明が面白かった ・住人の地域への愛着を感じた ・工場を見せて貰ったことにより歴史・文化を学べた ・時間がちょうど良い ・サコッシュが良い ・学生が一生懸命で良い(2) ・ツアーでしか行けないところへ行けて良かった ・住民だが、耳から馴染んだ事をガイドの人を通すことでまた新鮮味を感じた
クイズラリー	<ul style="list-style-type: none"> ・町おこし頑張って！ ・サコッシュかわいい ・お茶、お菓子美味しかった ・知らないところ含め隅々まで巡れて良かった ・楽しかった ・クイズラリー凝っていた ・地図が分かりづらかったので、新旧の地図を合わせて表示されていると良いと感じた ・若い人たちが集まり賑わっていて良かった ・学生の着物姿が良かった ・企画を通して、地域の人や学生とコミュニケーションが取れて良かった ・町を知ることが出来た ・学生が頑張っていて良かった ・難しかった

4 考察

4-1 学生デザインによるサコッシュの効果

企画参加の目的を見ると、両方とも「サコッシュのデザインが良かったから」が上位である。サコッシュのデザインは 1848 年の金屋町の古地図を基に制作した。現在の金屋町と比較すると河川や多少の道路の変化はあるが、大幅な変化が無く、当時と変わらない景色ということが特徴であった。30 代の参加者は今回いなかったが、幅広い年代層の方に手に取ってもらった。ツアー時に身につけやすいということで、「藤グループ」が普段の活動でも使っているという報告を受けた。また、イベント時以外の常時展示や販売を行えるようにできたらという提案も出た。若者が金屋町に興味を持って欲しいという願いからターゲットを 20 代とし、若者が普段の生活で使いやすい小さめのカバンであるサコッシュを制作した。結果として、子ども連れの家族や年配の方にも企画に参加してもらった。日常利用できる小さなアイテムは興味を惹き付け、イベント時に効果的だと考えられる。

4-2 学生のお茶会との組み合わせによる効果

自由回答で、「お茶・お菓子が美味しかった」という意見がいくつかあった。企画で知識を深めた後に、ゆっくりと落ち着き、会話をしながら飲食ができる形式とした。このような話す機会を設けることで、参加者と地域住民と学生のコミュニケーションの場となり、地域住民から参加者や学生に対して、金屋町に関するより詳しい話がされるなど、金屋町について理解を深める場として機能した。

4-3 学生と地域住民との協働企画による効果

金屋町を良く知る「藤グループ」にいくつかクイズを考えてもらい、その中から選定を行い 10 個のクイズが完成した。解説用紙を作る上でも、「藤グループ」へ問い合わせをしたり、多くの地域の方々に協力してもらったりし、制作を通して学生が金屋町について理解を深め、尚且つ地域住民とのコミュニケーションの機会となった。また、自由回答で「企画を通して、地域の人や学生とコミュニケーションが取れて良かった」、「学生が一生懸命で良い」、「住人の地域への愛着を感じた」という意見があった。実際にヒントや解説で参加者が学生や地域住民とコミュニケーションをとっていたことを確認できた。このように、学生と地域住民がそれぞれの知識と技術を活かし合いながら企画・運営をすることによって、それぞれにより効果を与え、さらには参加者に対してもよい印象を与えた。

4-4 2つを企画したことによる幅広い参加者

居住地域に着目すると、ガイドツアーでは「金屋町」、

「高岡市内」から「富山県内」、「北陸」、「その他」まで幅広く参加しているが、クイズラリーでは「高岡市内」、「富山県内」が多くを占めている結果となった。また、来訪回数にも着目すると、ガイドツアーでは「4 回以上」が半数を占め、次に「1 回目」が多かった。クイズラリーでは「4 回以上」が 6 割を占め、次に「2 回目」が多かった。このことより、ガイドツアーは居住地域が開催地域と遠い人や来訪回数が少ない人といった、その地域をあまり知らない人が選択しやすく、クイズラリーは居住地域が開催地域と近い人や何回か訪れたことがある人が選択しやすい傾向が見られた。より丁寧な説明が受けられるガイドツアーと、主体性を持って自由に巡ることができるクイズラリーの両方を企画したことによって、様々な人に幅広く参加してもらうことができたと考えられる。ただし、クイズラリーのアンケート回収は、ゴールをした人のみ（回収率 51%）となっており、ゴールができなかった人も多いためと考えられる。途中でゴールを諦めない企画作りが今後の課題として挙げられる。

4-5 古地図を使った効果

サコッシュのデザインに古地図という歴史的なものを扱うことで、日常利用できる小さなアイテムで興味を惹くこと以外に、昔と現在の比較によって、金屋町の歴史を理解してもらう狙いがあった。参加者を惹き付けるデザインとしては効果的であったと考えられるが、自由回答では「地図が分かりづらかったので、新旧の地図を合わせて表示されていると良いと感じた」という意見があり、改善の余地があると考えられる。

5 まとめ

本研究では地域と学生が協働企画した歴史まちあるきツアーをアンケート調査により検証した。その結果から、①学生デザインによるサコッシュに効果があったこと、②学生のお茶会との組み合わせによる効果があったこと、③学生と地域住民との協力によって知識の深めだけでなくコミュニケーションがとれたこと、④参加者の属性によって企画の選択ができたこと、⑤古地図を使った効果を考察した。また、古地図の効果的な活用方法の検討と途中でゴールを諦めない企画作りが今後の課題として挙げる事ができた。今後も継続的に関わり、今回挙げた課題解決によって、より効果的な歴史まちあるきツアーの企画を行いたい。

参考文献

- 1) 工業都市高岡クラフトコンペ実行委員会, 高岡クラフト市場町実行委員会, ミラレ金屋町実行委員会: TAKAOKA 工業都市 高岡の秋。2019, P. 6, 2019

* 富山大学芸術文化学部 学部長

* Undergraduate., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama

** 富山大学芸術文化学部 講師・博士 (デザイン学) ** Senior Assist. Prof., Faculty of Art and Design, Univ. of Toyama, Doctor of Design